

一般的信頼を基盤とした英語Willingness to Communicateモデルの検討

○伊藤健彦¹・上市秀雄²



¹法政大学・²筑波大学

¹itotakehiko@hosei.ac.jp

背景

◆日本における英語コミュニケーションの機会の現状

○30代・40代の日本人2240人を対象とした質問：「あなたは、普段どの程度、英語話者と接する機会がありますか？」
⇒「全くない」「あまりない」の回答が計**90%** (伊藤, 未発表)

◆Willingness to Communicate (以下WTC) と一般的信頼

- WTC：ある特定の状況で第二言語を用いて自発的にコミュニケーションをしようとする意思 (八島, 2008)
⇒社会環境・性格特性は第二言語コミュニケーションの認知・感情を媒介してWTCに影響を与える (MacIntyre & Charos, 1996)
例：開放性が高い人は、第二言語コミュニケーションの自信が高く、その結果として第二言語WTCが高くなる傾向にある
- 一般的信頼：一般的に他人は裏切らないであろうという期待の傾向 (山岸, 1998)
⇒日本人の一般的信頼が上昇すると、日本人の英語WTCが上昇する (Ito, 2021)
- 一般的信頼を基盤として英語WTCに影響を与える要因を包括的に検討した研究は日本や海外において見当たらない

日本人の英語コミュニケーションの積極性を上げるための政策を立案するためには、積極性に影響を与える心理的・社会的要因の影響を包括的に検討し、一般的信頼を基盤としたモデルの全体像を解明することが重要

目的

◆先行研究

○Ito (2021)
東京の大学生・全国の社会人を対象とした社会調査の結果、一般的信頼が上昇すると、英語WTCが上昇した

◆先行研究の問題点

○英語WTCに影響する心理的・社会的要因を包括的に検討していないため、一般的信頼と他の要因の関係が分からず、一般的信頼を基盤とした英語WTCモデルが明らかとなっていない

本研究の目的：
WTCに影響を与える心理的・社会的要因の影響を包括的に検討し、一般的信頼を基盤としたWTCモデルを明らかにする

方法

◆社会調査 2023年2月1~3日インターネット調査実施

- 対象：全国に住む20代~60代で各年代100名の計500名の日本人 (男性250名女性250名。年齢の平均値 = 44.63, SD = 14.03)
- 質問項目 (5段階尺度)
- ・WTC74項目
[展開あり×能動的] 例：パーティーで、同席した人に、趣味について英語で質問する
[展開あり×受け身] 例：パーティーで同席した人に趣味について英語で質問されたら答える
[展開なし×能動的] 例：レストランで、ウェイターに、メニューについて英語で質問する
[展開なし×受け身] 例：駅で、乗客に、乗り換えについて英語で尋ねられたら答える
- ・一般的信頼6項目 (例：ほとんどの人は他人を信頼している)
- ・第二言語不安3項目 (例：私は、英語を話すことに不安を感じる)
- ・第二言語学習動機3項目 (例：私は、英語学習のやる気がある)
- ・国際的志向性22項目 (例：私は、国際的な問題に強い関心をもっている)
- ・第二言語コミュニケーションの自信74項目
(例：パーティーで、同席した人に、趣味について英語で質問する)
- ・ビッグファイブ (外向性・協調性・勤勉性・神経症傾向・開放性各2項目)

結果

表1 一般的信頼と認知・感情がWTCに与える影響：重回帰分析

	β
一般的信頼	.01
第二言語不安	-.01
第二言語学習動機	-.01
国際的志向性	.15 **
第二言語コミュニケーションの自信	.81 **
R^2	.81 **

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$; 標準化係数

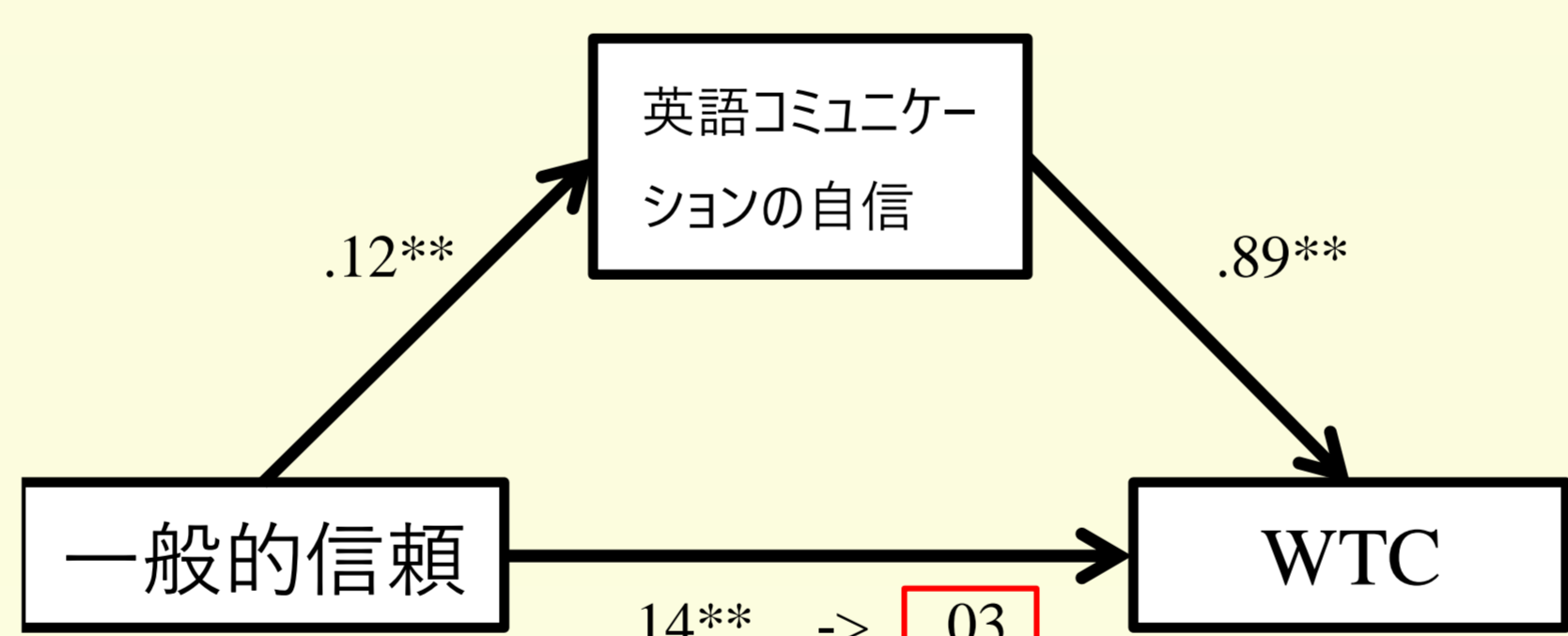
国際的志向性と第二言語コミュニケーションの自信のみWTCに正の効果を与えていた。この傾向は、WTCの相手を英語ネイティブと非ネイティブに分けても同じであった。

表2 環境・性格を統制した一般的信頼がWTCに与える影響：重回帰分析

	β
一般的信頼	.08 *
外向性	.05
協調性	-.01
勤勉性	.00
神経症傾向	.04
開放性	.07 +
性別	-.01
年齢	-.02
普段英語話者と接する機会	.25 **
過去に英語話者と接した経験	.42 **
R^2	.45 **

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$; 標準化係数

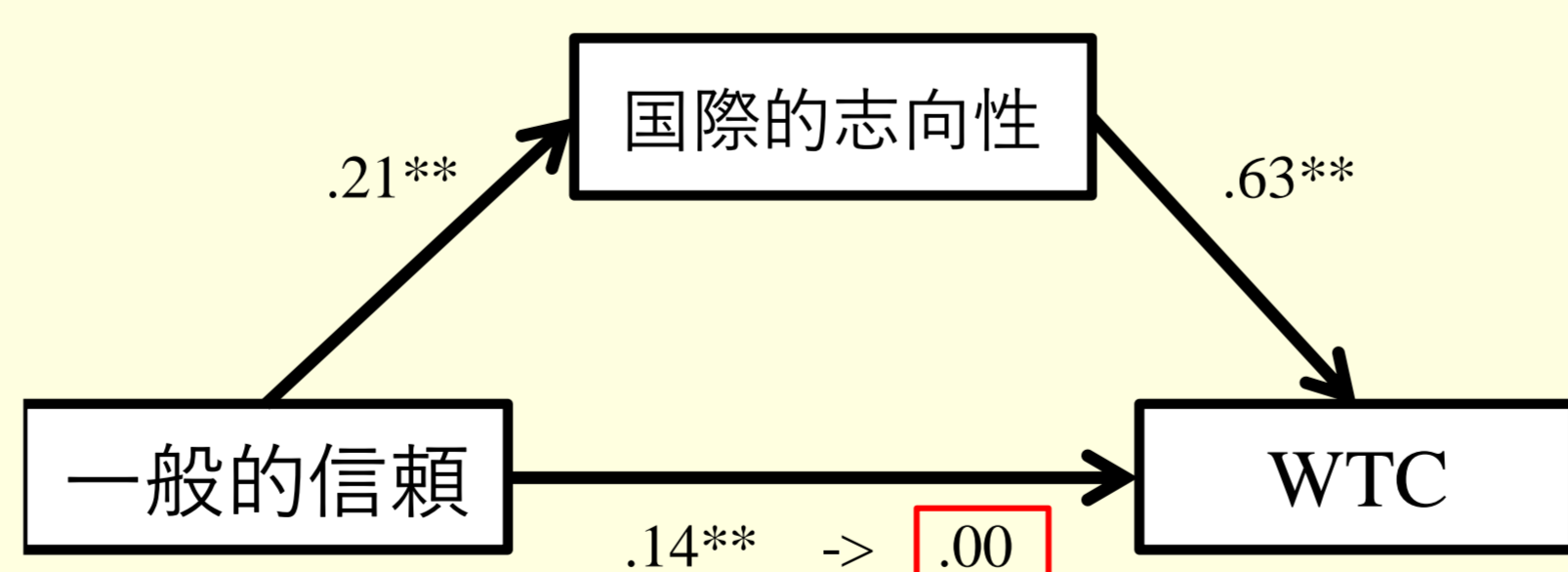
社会環境・性格特性を統制しても、一般的信頼はWTCに正の効果を与えていた。この傾向は、WTCの相手を英語ネイティブと非ネイティブに分けても同じであった。



** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$
Z = 2.41, $p < .05$, $b = 0.14$, $SE = 0.06$, BC method, 99% confidence interval: -.02 - .28

図1 一般的信頼がWTCに与える影響における自信の媒介効果：媒介分析

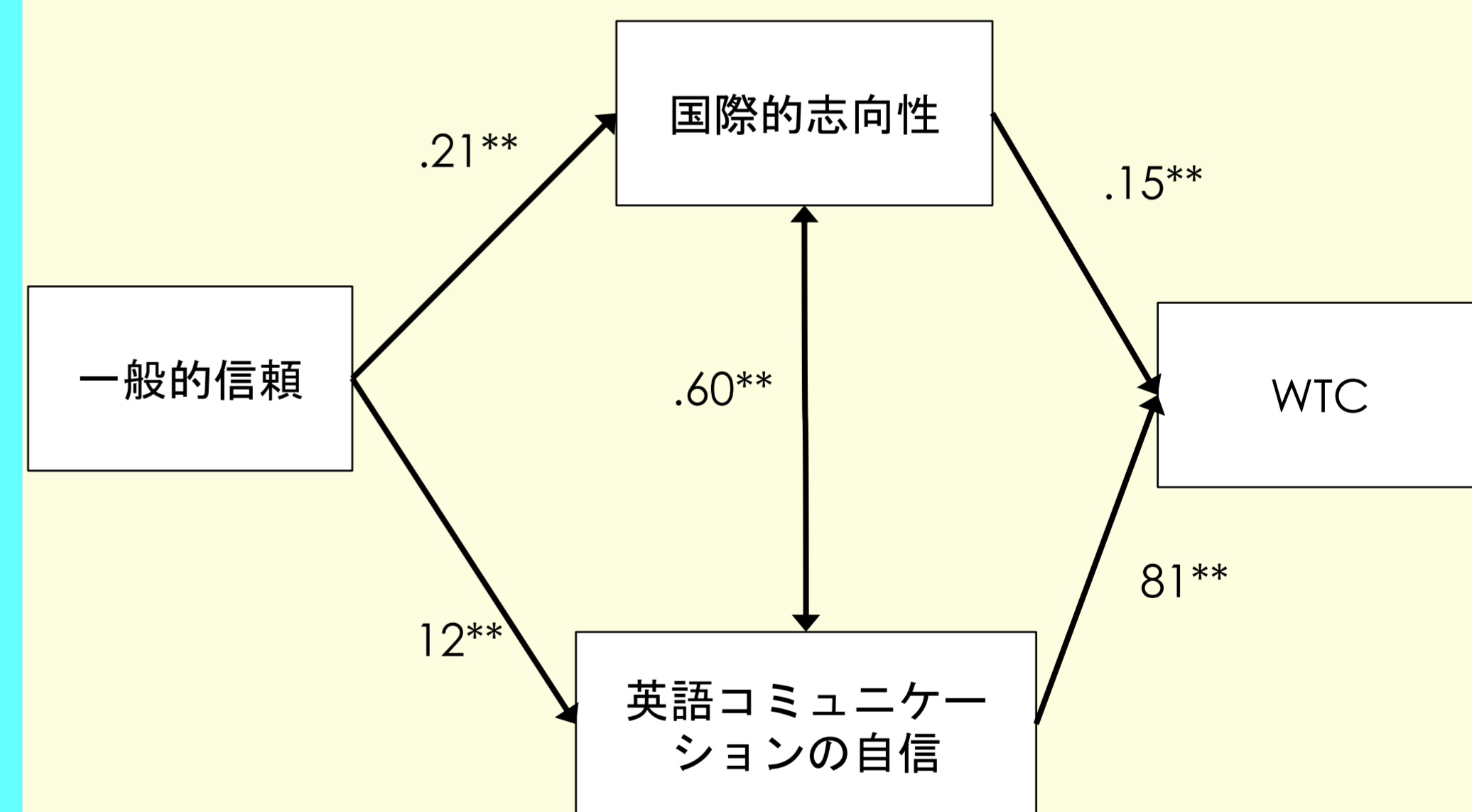
一般的信頼が高い人は、英語コミュニケーションを上手にやれると思う結果、WTCが高くなる傾向にあった。この傾向は、WTCの相手を英語ネイティブと非ネイティブに分けても同じであった。



** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$
Z = 4.20, $p < .01$, $b = 0.13$, $SE = 0.04$, BC method, 99% confidence interval: .06 - .28

図2 一般的信頼がWTCに与える影響における国際的志向性の媒介効果：媒介分析

一般的信頼が高い人は、海外への興味・関心が高まる結果、WTCが高くなる傾向にあった。この傾向は、WTCの相手を英語ネイティブと非ネイティブに分けても同じであった。



$\chi^2(1) = .36$, $p = .55$, GFI = 1.00, AGFI = .99, CFI = 1.00, RMSEA = .00

図3 一般的信頼を基盤とした英語WTCモデル：パス解析

一般的信頼が高い人は、海外への興味・関心が高まると同時に、英語コミュニケーションを上手にやれると思う結果、WTCが高くなる傾向にあった。この傾向は、WTCの相手を英語ネイティブと非ネイティブに分けても同じであった。

考察

◆心理的・社会的要因の影響を包括的に検討したところ、一般的信頼は間接的に英語WTCに影響を与えていた

○そもそもコミュニケーションの相手の信頼性を判断することが、英語WTCに影響を与える要因の基盤にあった
⇒自分がコミュニケーションの受け手として、相手に信頼性を判断されることも考慮する必要がある

・話しかけられる側も信頼できる人間である必要性：積極性の育成 (文部科学省, 2023) だけでなく信頼される態度の育成が必要
・会話の相手がネイティブでも非ネイティブでも関係なく、お互いが信頼できるコミュニティ作りを目指す